



想、

今だから分かること。
常識の違いに涙が出、
常識の違いに成長させられた。

美容家としてだけでなく、テレビ業界をはじめ各分野で絶大な人気を誇る福智町出身のIKKOさん。その明るいキャラクターとストイックなまでの美意識の高さで、美のカリスマとして不動の地位を築いています。しかし「涙が成長させてくれた」と本人が振り返るように、その人生の道程にはコンプレックスの克服や血のにじむような努力がありました。今回、郷土を愛する観光大使のIKKOさんに、特別インタビューで福智の子どもたちの飛躍につながるメッセージを贈っていただきました。

私

が故郷を後にしたのは19歳の春。美容師を目指して横浜に向う出発の日。金田駅で父と母に見送られてから、早31年という月日が経ちました。

はじめて自分が横浜という街に近づいたとき、車窓から見えたオレンジの夕日が今でも忘れられません。私にとって「希望」と「不安」のどちらを示しているのか、複雑な気持ちになったのを覚えています。本牧に米軍基地のあった当時の元町は、アメリカ人が多く、山手には外国人住宅街や外資系の大きなマーケットがありました。そこから一つ通りを入れば中華街。いくつもの異国が共存してい

涙が私を成長させてくれた

住み込みで働く私は、初日の宿舍で初めての洗礼を受けました。食事は4人ほどの長テーブルで先生方とご家族、そして兄弟子、姉弟子の15人ほどで暮らしを共にする。それまで実家では、夜になると夕食を食べられる事は当たり前でした。しかし、今日からは違うのだという事を思い知らされたのです。「これからは親元を離れたのだから、働かなければ食べられないのよ」あなたは今日働いていないから、この場所にはご飯がないのよ」正直、びつくりしました。だけどそれは、私に対する愛情だったのだと今ははっきりと思います。これから先は、働かなければ食べていけないという基本中の基本を教えてくださいました。その日のうちに、後からちゃんとご飯を食べさせて頂きました。それから、立場が一番下だった私は、先生方、先輩方をたてるために、控えめに食べるおかずの量や食事のスピードにも気をつけながらの生活が始まったのです。しかしながら、その教育は後々私を助けてくれました。ヘアメイクとして独立した時に、裏方の食事時間はほとんどありません。さらに今この仕事の状況では誰に合わせてご飯を食べて、メニューを頼める場合は何を頼むべきか？ その立場での気遣いが自然と身に付いていたのです。

美容室の住込生活は毎日深夜12時過ぎまで先生のお話を聞き、朝は6時に起きて開店準備や練習に没頭。人に合わせるのが苦手だった私は、周囲を気にせず自分のスタイル

て、はじめて見る不思議な光景に心奪われた事を思い出します。そして「ハマトラ」の流行ファッションで華やぐ街に、私は強烈な刺激を受けながら、当時、超高級美容室だった「髪結處 サロンド サワイイ」に足を踏み入れました。レッドカーペットで敷きつめられた受付と強烈な赤いらせん階段に、最初のカルチャーショックを感じたのです。そして2階に上がり、働いている先輩方(店員さん)の、お客様をもてなす、という全ての接客の素晴らしさに、さらなるショックを受け「私は本当にこの場所でやっていけるのかしら？」と、否応無しに衝撃を受けました。

を貫こうとしました。そんな中で、私はいろんな事を学びました。その時に先輩に言われたのは「あなたが自分のベースを貫こうとするという事は、覚悟して生きていかなければいけない」という言葉でした。その時は意味が分からず、後でつらい思いも、人生の中で苦しむ事もありました。今思う事は、当時は、合わせる事を覚えなければいけなかったと反省ばかりです。合わせなければいけない時、自分を貫かなければいけない時、我慢しなければいけない時、人生にはいろいろあります。この時は、まさに合わせなければいけない時。だって大切に想われていない時に「大切にしてください」そう言っても伝わらないでしょう。今になってようやく分かります。もうひとつ忘れられない言葉があります。「あなたがこの街を選んで、この街で生きていくということは、あなたの常識をこの街に合わせなければいけないから、今日一日から標準語を覚えなさい。横浜という場所を選んだのだから」それからというもの、標準語を話そうと思えば思う程、言葉が出なくなっ

てしまい、受付でミスばかり。次から次へと来るお客様のレジ計算でも、緊張してミスばかり。それで何をやっても焦ってしまい、出来ない。それで言われた言葉が「本当に何をやっても出来ないのね。親の顔が見てみたい。」



© Koji Miyazaki

あまりに衝撃的な言葉でしたが、この時の自分には、この言葉が必要だったのだと、今なら感じれるのです。それは、社会人になったその時から、今まで生きてきた常識を捨て、新たな環境における常識を身につけていく事が、本当に大切な事だと感じるからです。今までの常識を捨てる。これは、いつかは通らなければいけない道。ただ当時の自分は、そんなことすら気づきません。ふと周りを見渡すと私の居場所が無いと感じさせられます。それで私の居場所を探すためには、技術で頑

張っていくしか無いと思ったのです。毎日毎日技術に専念していきました。その最初の技術が「シャンプー」でした。それから、今でも忘れません。初めてのシャンプーの指名が入ったのです。中華街の超有名な劉のママという方が、私を指名してくれたのです。それからお客様の輪が広がっていき、指名が増えていきました。それでようやく私の居場所を掴んだような、第一歩を踏み出したように感じる事ができました。居場所は人に作ってもらう事ではなくて、自分で作っていくという事を

昔、私のことを想って先生方、先輩方へお礼を言いたくて、今ようやくその意味がわかる年になりました。先生方、先輩方に心より感謝申し上げます。
IKKO



IKKOのキレイになるハワイ-PRECIOUS HAWAII-より
photo: Koji Miyazaki

【IKKOプロフィール】
女性誌をはじめ、テレビ・CM・舞台などのヘアメイクを通じ「女優メイク IKKO」を確立。その後、美容家・タレントとして活動。最近ではコスメをはじめ、多くの女性の美に対するプロデュース業にも注目が集まる。2011年「福智町観光大使」に就任。著書「IKKOのキレイになるハワイ-PRECIOUS HAWAII-」絶賛発売中。

最後に、大人になっていく過程で、厳しい事を言うことができることが本場にありがたいことなのだあとようやく感じられるようになりました。沢山の先輩方からの言葉を素直に受け入れずに、相当嫌な想いをさせてきたと思います。あきらめずに指導して頂いた先生方や先輩方に心から感謝申し上げます。この想いを私の後輩たちである福智町の皆様に、少しでもお伝えする事が出来れば幸いです。

IKKO